



## 写真の力



上はドイツ人写真家Thomas Hoepker氏の作品である。テーマとなっているものはすぐに分かるだろう「9・11」である。事態を知った彼はカメラをもって出かけるが、ニューヨークの地理に疎かったためマンハッタンとは違うところに到着してしまう。その時撮った写真がこれである。写真が雑誌に公開されてから、幸せそうに寛ぐ人々の姿は物議を醸すことになる。写真に写っている何人かは、周囲からの批判を受けてヘプカー氏に連絡を

取った。撮影する際、ヘプカー氏はその人々に声をかけていなかったのである。特に、写真中央の女性はフォトグラファーで、ヘプカー氏に「私は人を撮影する時は声をかけて許可を得る、あなたはなぜ私たちを撮ったのか？」と問いただした。ヘプカー氏の答えは「声をかけてから撮れば、おそらくこの写真はなかっただろう」である…。

この写真は素晴らしい。一方で恣意的なフレームが問題を提起する代表例でもあろう。